

意思決定支援のエキスパートが25の事例で解説する
医療者に向けたコミュニケーションの教科書

「意思決定支援 こんなときどうする!？」刊行

医療法人社団 焔（東京・板橋区／理事長 安井佑）が運営する、「おうちにかえろう。病院」（東京・板橋区／病院長：水野慎大）は、『意思決定支援 こんなときどうする!？』（2024年9月19日発売）を三輪書店より刊行致します。



本書は、東京都板橋区の地域包括ケア病床単独の病院である「おうちにかえろう。病院」病院長の水野医師が、これまで自身が実際に関わったケースを改めて分析し、「意思決定支援」の現場のみならず、多くの医療者が日々直面する患者やその家族とのコミュニケーションエラーの代表的な事例を会話形式でわかりやすく解説しています。

■意思決定支援にこだわる、 「おうちにかえろう。病院」とは？

「おうちにかえろう。病院」では、急性期から在宅への橋渡しを行う医療機関としての機能のみならず、患者およびその家族の「意思決定支援」が重要であると考えています。

そのため、患者一人ひとりが抱える疾患だけではなく、**社会的な背景や、これまでの人生の歴史や価値観を、医師、看護師、リハビリスタッフだけでなく、相談員、栄養士、薬剤師まで、全てのスタッフが理解した上で、退院に向けて必要な支援を行っています。**



■ 誰も教えてくれなかった、患者とのコミュニケーションエラー問題。 その傾向と対策を、超具体的なケースを元に徹底解説しています。

状況別や疾患別にさまざまなケースを、具体的なスクリプト形式で掲載。


「主治医のもやもやポイント」「すれ違いポイント」「失敗ポイント」を医療者の立場からの考えで示したうえで、患者家族側の視点を加え解説し、改善スクリプトに落とし込むことで、俯瞰的に理解しやすい構成となっています。


3


家族内の方針がバラバラで、話し合いが成立しないケース

90歳代、男性。ADL・認知機能いずれも低下を認めない。同年代の妻と同居。心不全増悪を契機に訪問診療が介入したが、尿路感染症を契機に入院となった。入院後はさらに廃用症候群が進行し、経口摂取も進まなくなった。本人の意識は清明で、延命処置はすべて拒否している。

退院後の療養場所を検討するために、家族と相談を行った。

 これからの方針を相談したいのですが、この後のことをどうお考えですか？

 この年だから、悪い病気があっても仕方ないし、治療する気もない。今の家に長年住んでいたから、自宅が最期を過ごしたい。病院には本当は入院したくない。

 私自身も階段の上り下りがつらい。あなたが呼ぶたびに家の中を動くのが大変。具合が悪くなった時にどうしたらいいかわからない。耳も悪いからうまく電話もできない。入院していてくれたほうが安心です。

本文サンプル (p.16より抜粋)

主治医のもやもやポイント

- 本人の思いよりも、周囲の都合で決定した。
- 直接かかろうとする意思がない長女の思いで押し切られた。
- 10日後に亡くなるのであれば、結果的には家でみることでよかったのではないかと感じた。

すれ違いポイント

- 家族がそれぞれの都合を主張するばかりの話し合いになった。
- 家族と医療者それぞれで、想定している予後予測をすり合わせる事がなかった。

解説

本事例では、話し合いのテーマである「これからのこと」に対して、各メンバーが考える時間軸がずれていることから、すれ違いが始まっています。つまり、

医師：(予後2週間を) 本人がどこで過ごすか
長女：(本人の死後の) 家族に対する気がかり
次女：(期間未定で) 本人がどこで過ごしたいか
長男：(期間未定で) 誰が本人と向き合うか
妻：(今) 本人と自分がどこで過ごすか

本文サンプル (p.19より抜粋)

■対象読者

- ◆ 医師、看護師、リハビリスタッフの他、医療従事者
- ◆ 医療・福祉分野の学生
- ◆ コミュニケーションに課題を感じている全ての方

■書誌情報

- ◆ 書名 : 意思決定支援 こんなときどうする! ?
- ◆ 著者 : 水野慎大
- ◆ 出版社 : 三輪書店
- ◆ 刊行日 : 2024年9月19日
- ◆ 判型等 : A5 / 224頁 ISBN978-4-89590-825-2
- ◆ 定価 : 3,850円 (本体3,500円+税)

◆ 9月19日 (木) より全国の主要書店にて発売

◆ amazon予約ページ <https://amzn.asia/d/dLLWVns>

◆ 三輪書店サイト <https://shop.miwapubl.com/products/detail/2780>

2024年 Amazonにて予約受付中

9月19日（木）発売



患者・家族の真のニーズがみえていますか？

意思決定支援

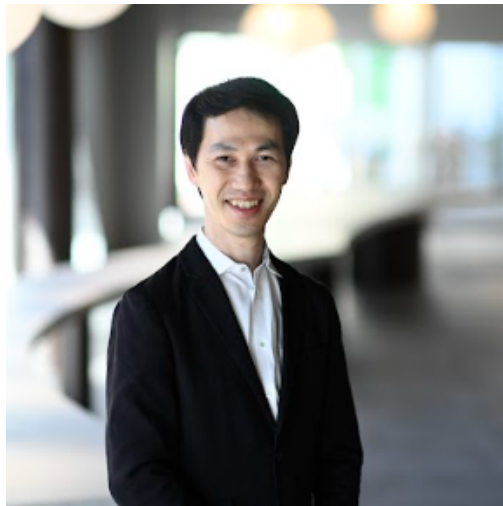
こんなときどうする! ?

水野慎大（おうちにかえろう。病院 院長）著

コミュニケーションを失敗するケースには一定のパターンがある。裏を返せば、犯しやすい過ちを知っておくことで失敗を未然に防げるケースが多いということ。本書は著者が実際にかかわった意思決定支援における25のケーススタディで構成されています。

想像力が足りずに無意識のうちに相手を傷つけていたケース、医学的妥当性を振りかざして返り討ちにあったケースなど、うまくいったケースも、うまくいかなかったケースも正直に再現しました。言葉遣いにも着目していただき、「いるよね、こういう医者」とか、たくさんの突っ込みを入れながら読んでください。

■著者プロフィール



水野 慎大（みずの しんた）

医療法人社団 焰 おうちにかえろう。病院 病院長

日本内科学会総合内科専門医/日本消化器病学会消化器病専門医/日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医

◆経歴

2000年 筑波大学附属駒場高等学校卒業

2006年 慶應義塾大学医学部卒業

総合病院国保旭中央病院 初期臨床研修医

2008年 慶應義塾大学医学部 内科専修医

2009年 東京都立大塚病院 内科 医員

2010年 慶應義塾大学医学部 内科学（消化器）

慶應義塾大学大学院 医学研究科博士課程 入学

2014年 慶應義塾大学大学院 医学研究科博士課程 修了
博士（医学）取得

東京都済生会中央病院 消化器内科 医員

2015年 慶應義塾大学医学部 内科学（消化器）助教

2018年 慶應義塾大学医学部 内科学（消化器）専任講師

2019年 医療法人社団 焰 やまと診療所

2021年 医療法人社団 焰 おうちにかえろう。病院 開院に伴って現職

2022年 慶應義塾大学文学部入学

本件に関する報道関係者様からの問い合わせ

TEAMBLUE(やまと診療所) 広報部(島田/峯村)

電話番号:03-5926-8128 (広報直通)

メールアドレス:publicrelations.dept@teambly.jp

〒174-0061 東京都板橋区大原町44-3